

廣田の 鹽田から

廣田は、鹽田に於いては、如何なるものか、と問はれた。廣田は、鹽田に於いては、如何なるものか、と問はれた。廣田は、鹽田に於いては、如何なるものか、と問はれた。

鹽田に於いては、如何なるものか、と問はれた。廣田は、鹽田に於いては、如何なるものか、と問はれた。廣田は、鹽田に於いては、如何なるものか、と問はれた。



鹽田に於いては、如何なるものか、と問はれた。廣田は、鹽田に於いては、如何なるものか、と問はれた。廣田は、鹽田に於いては、如何なるものか、と問はれた。

御即位禮の活動寫眞

京城日報毎日申報兩社各支局主催
活動寫眞眞謹寫巡業日程

- 水原 廿六日夜
- 光州 廿七日夜
- 大邱 廿八日夜
- 釜山 廿九日夜
- 大田 三十日夜
- 全州 三十一夜
- 馬山 二日夜
- 鎮海 三日夜

但し右日程は豫定なるが故實行の場合には多少の變更を見
るやも圖られず

現愛讀者各位に對し 各等三割引

毎日申報の中一ツを御希望に應じ一箇月間無代進呈

商況

東京株式特電
東京米米特電
大阪米米特電
大阪株式特電
東京米米特電
大阪米米特電
大阪株式特電

東京米米特電
大阪米米特電
大阪株式特電

東京米米特電
大阪米米特電
大阪株式特電

スリはホシ

沐浴の道

鰻卸販賣

鮮魚一手販賣

貯蓄預金

元金百圓二付日歩壹錢三厘金

森ミルク

キヤラメル

春の運動會

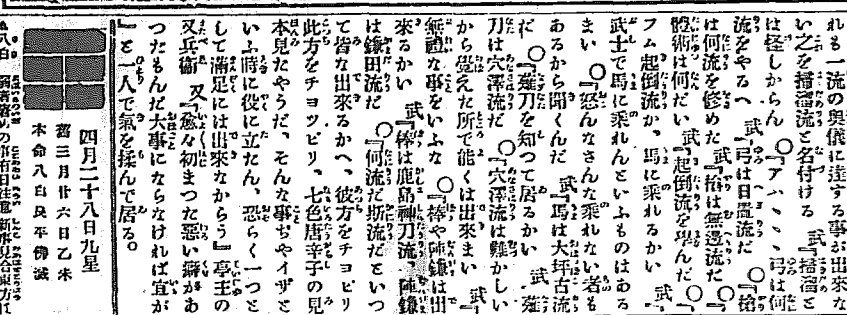
郊外散歩

婦人科

中央婦人病院

第二十回

桔梗屋又兵衛は下へ下りて来て 又、
按摩さん、〇オイ按摩さん 〇何だ
俺を呼ぶのは何處だ 又、横風な野郎
だな、按摩さん此方だ桔梗屋だよ一
つお頼み申す 〇按摩の用は此方か
又兵衛の家か 〇又兵衛、な々と言や
アがる、二階のお客が肩が凝つて
療治を頼みたいと仰しやるから上つ
て療治をしてお呉んなさい 〇「ム
二階の客が武士か町人か 又、初めた
やう 〇「ハア斷つて置くが俺は療治
が少し荒いから其積りで 武拙者も
荒いのが宜い、女按摩や小僧では
どつたくて可かん荒い方が心持が宜
い 〇「ウム夫は面白い俺も町人や百
姓を揉むより武士を揉むのが好だ、
武士は瘦せても枯れても骨がある
竹がなければ海月か海鼠だ、貴所の
骨がなれば削た小さい武士でも武
士ははばたき、武士ははばたき、武
士だだけの骨があるだらうから揉め



居る。○「ムン」腕の付根の「工合を」銅柄
をやつた事のある人だ、武士でもない
ものも武士だといつて 購考しても
腕の付根を見れば直ぐ分る。貴公は
武士に違ひない、最初は俺は貴公は
武士ではない色が生白いつて變形だ
から歌舞妓役者が化けて武士になつ
た、河原乞食の類かと思つた。又「ソ
ロ」初まり。○「腕の工合を見
る」とさうでない、貴公は銅柄は流
をやんなさる。一刀流か、異體流か
な。武二刀流もやる異體流と少し學
んだ。○「ハア」兩方やんなす。尤か、
武二刀田流も習ひ、十體流も覺えと
○「五目か 武二何だ五目とは」○「一
刀流もやる異體流ややる、何もやる
斯もやるといふのは宜しくない、何

れも流の奥儀に達する事が出な
い之を種御流と名付ける 武 種御
は怪しからん ○アハハハハ、時は
流を修めたる 武 時は日流流だ
は何流を修めたる 武 時は無邊流だ
體相は何だ い 武 起御流を學んだ
ム 起御流か、馬に乗れるかい 武
武士で馬に乗れんといふものはあ
まい ○怒んなさんな乗れない者も
あるから聞くんた 武 馬は大坪古流
だ 〇薙刀を知つて居るかい 武 薙
刀は大坪流だ 〇穴澤流は難かい
から勉強した所で、能くは出来な
い無禮な事をいふな ○椿や神鐘は出
来るかい 武 椿は鹿附神刀流、神鐘
は鐵田流だ 〇何流だ斯流だとい
つて皆な出来るか、彼方をチョビ
此方をチョツビリ、七色唐辛子の見
本見たやうだ、そんな事ぢやイフ
して海に役に立たん、恐らく一つ
しつ潮足には出来なからん 〇亭主
の又兵衛、又「怒ん初まつた悪い癖があ
つたもんだ大事にならなければ宜
い」と一人を氣を揉んで居る。

四月二十八日九星
舊三月廿六日乙未
本命八日良平佛滅

[illegible]

とどろき又は一丁目十一山口小町
は神戸市布引町一丁目十一山口小町
屋へ切手封入紙下さい眞の通經妙
藥あり人助けの爲御知らせ致します

寫眞

寫眞出張撮影
寫眞銅版、亞鉛凸版
最も精緻なる技術を以て最も廉價に迅速と丁寧親切な旨とし何萬張にも可應答

京城日報社 寫眞製版部

血の道(ヒステリイ)の起易き時なれば

男^{おとこ}婦^{にじん}人は持^{ちやく}薬と



中將湯

を召上り

ついにた油斷が原因で
不幸な病に罹らぬやう

此際誰方も注意が肝要

子宮病子宮内膜炎にて白帶多く前たいれ又下腹腰足の冷引つゝ
 婦人神經(ヒスナリ)血の道氣響き膈高より物を苦し夜眠
 月經不順月經滯り等にて吐出物多く又何となく身體強しき
 逆上頭痛眩暈し肩こり腰足冷え思切動氣強く手足痺れ水腫
 十七八歳になりて月經なく血ぶりと又月經の前後に下腹痛む
 白帶赤帶下多し顔色蒼白き人冷症にして難産流産の癖ある
 産後となく常ならざる人嘔吐産後古血の滯り或は日立惡
 此婦子宮血の逆月經不順に起個する諸病にてふちと云き

能 効 治 主

價	定										
二日分	四日分	一日分	二日分	三日分	五日分	十日分	十五日分	廿日分	卅日分	半年	一年
六十五	六十	五十五	五十	四十	三十	二十	十五	十	五	三	一

加減藥あり容服野
しく御申込みあれ
加減藥定價
一連分 七十五錢
因連分二圓五十錢



國中勝過は世間利

東京市日本橋區通四丁目
津村順天堂本店
無期口番 六〇八番
電話本局 六六三番
大阪市堺筋大寶寺町南入
津村順天堂支店
電話口番 二四六番
電話海番 二五五番
の藥店にあり市内配達無料

時を正しく
過ごす
方法を
知って
人生を
楽しむ

[illegible][illegible]

立神丸	四月	日午後五時出
○元山清江龍藥行		
立神丸	四月	日午後五時出
○門司、神戸、大坂行		
小倉丸	二月	日午後五時出
○元山、成津、能登行		
小倉丸	三月廿六日午後十時出	
○元山、北九州、新、松浦、津浦行		
第三号半丸	三月廿六日出	
○門司、宇治、四月		
第三号半丸	四月	日午後六時出
○佐和奈、熊鷹、壹岐、多摩行		
天眞丸	四月廿六日	午後十一時出
廿一日廿六日		
本報取貨店	大池園	

[illegible][illegible]

日本郵船出帆

大連、太沽、牛莊行	青島、天津、上海、香港、新加坡、檳榔嶼、仰光、孟買、科倫坡、馬尼拉、宿務、巴拿馬、科隆、聖多明各、哈瓦那、墨西哥城、紐約、倫敦、巴黎、布魯塞爾、安特衛普、阿姆斯特丹、鹿特丹、漢堡、柏林、布拉格、維也納、蘇黎世、日內瓦、里昂、馬賽、尼斯、摩納哥、熱那亞、米蘭、都靈、佛羅倫斯、羅馬、那不勒斯、熱那亞、米蘭、都靈、佛羅倫斯、羅馬、那不勒斯
五月五日 正午出帆	五月五日 正午出帆
五月十三日 正午出帆	五月十三日 正午出帆
五月廿三日 正午出帆	五月廿三日 正午出帆

電話七番
電報一七番
大塚農場自動車部
大邱出張所

平陽丸	五月八日	元山發
永興丸	每月廿八回	元山發
北興丸	每行	元山發
金陵丸	四月廿五日	釜山發
江陵丸	每日	(釜山)發
釜山丸	四月廿九日	釜山發
三浦丸	每行	釜山發
統營丸	每行	釜山發
天九丸	三日一回	木浦發
慶興丸	四月廿八日	木浦發
興興丸	每行	木浦發

[illegible][illegible]

切符發賣所 電話三三三〇五	大坂南船會社 川支店	內 函通是貨社支店
------------------	---------------	-----------

[illegible]

刊朝日七廿
(夏八て廿合と刊夕)

貿易と自給策

幣せり。但た商品價値に於ては、九
 百餘萬圓の入超なるを憾とすべしと
 雖も、夫體に於て頗る順應に應ける
 のを否定す可らず。是れ固く、總分の
 伸曲あるべきが、産業獎勵の効果亦
 大なり。

東拓理事 村田俊彦
 (44)

北洋三水

(十三) 會寧街道

在る者亦皆開闢を觀かざるなく、意
 銳し。茲に遊が始めて國境の國を
 跨す。市街中俗に銀座と稱する所
 あり。商估最も繁榮なり。東京の銀座
 に反はざる遠く、其の百が一にも足
 らざるべしと雖も、其の趣に依り駢
 列せり。

朝鮮最北の
 頭城の北に西水羅あり。

岩窟塚あり。試に淺海の丘に上る
 と、浦江の水流れて日本海に注ぐこ
 ろ、遙かに天に接し、渺茫として雲
 煙の間に鬱鬱たりき。此丘亦櫻樹の
 栽培盛に行はる、三春の盛景想ふべ

是れより力あるを必せり。然るども最近年の貿易に就て見るに、朝鮮の輸移入品中、固若ながら生産品の資本たるべき機械類の如き必需品の外、奢侈品四百餘萬圓、飲食物五百餘萬圓、合せて九百餘萬圓を食ふ。

茂山嶺
 茂山嶺の街を出て、既にして茂山嶺に入る。嶺は密雲命峯、兩郡に跨り高く聳えて雲表を貫く。首を回せば茂山嶺の連山起伏して波濤の如く、附在者が假に命名せしものなり。邑の南端に兵營あり。師團の増設に從ひ増徴の企あり。邑の前途有望なり。然れども、吉會、兩縣、兩族、功の峯に在りては、間島貿易の主權は漸次清洲に移る懸念あることは之をきかり。

追春
 以上我すところ數千言、實其趣に隨はざるもの亦多かりき。是亦春を過て日れぬす一里の旅路哉。讀者、諒之。要するに北鮮の

の多きを占むるは、海に傾き極た
る。諸國互に其を欲し、有難く
思ふ事なり。又、陸路に便する
際期なれど、國內に於て生産し、又輸出
は製造し得べき物品をも、之を海外
に仰ぎ、其が爲めに出入の均衡を失
ひ、此間の風色殆ど熾爛と異ならず。
上に乘じ、十里餘にして會臺に達す
る。上下各一里餘山を下りて更にト
ロに乗じ、十里餘にして會臺に達す
る。此間の風色殆ど熾爛と異ならず。
感ず所無からざるべからざるな
。又清會帳の如きは途中殆んど貧
乏なる所あり。其の故は古昔に於
て、屋光に於て、古昔に於
て、屋光に於て、古昔に於

大阪財界便り

するが如きは、健全なる經濟の發展を企圖する所以にあらず。經濟の一體的進歩に基き、購買力の増進し爲めに朝服の生活程度を求めたることは、自然の趨向にして之を批難するには當りざれども、其の結果は遠方たり。僅に古峯山の孤嶺、屋敷の少し列々を見るのみ。古峯山の北、松岳より石出する所に於て、實其老婦人を滿載し、支那牛車を輓らせて行く鮮人を見たり。是れ間島に居住するものなりと云ふ。希く屋物の衆聚地無し。吉會縣成るを待ち始めて其用を完了するもねらん。會寧邑は實に間島の咽喉中の咽喉なり。間島よりの通路或は吉林街道（寧古塔街道）通過或は吉林街道（寧古塔街道）に比すれば倍不更なるとも、會寧街道に比すれば倍不更なるとも、市街には現角上向き居るも買賣を以て市中は現角上向き居るも

△分密糖の輸出 目下朝鮮にては日製原料糖たる木蘭（向け四千噸に五千噸と二口都合九千噸の分密糖二十三千噸處にて輸出する事に決定せるより）市中は現角上向き居るも

住を必需品以外の奢侈品を購ひて外
國の美を競ひ、虚榮心を満足せしむ
るが如き傾向に陥るが如きは、社會
人心を墮落に導くものにして、國家
の危うからしむるものに於ては、斯
の趨勢は、嚴に之を矯正せざる可
からざる也。

北の地も搜索すれば尙多くの礦物
産出するにあらずらん。現に錫
炭並に於ては有望なる英嶺山より
生氣礦に於ては其實良好なる錳大
鐵

二月二十一日ボンペーを發しマテラ
シへ水に乏しく十餘日に連互せる乾燥
期中は一滴の雨水だも得る能はざる

放浪漫記 大谷光瑞
(三月十八日シヨアラヒ於て)

らる。之れ今日朝鮮に於て、各領の瓦厝の結土獲得せられつゝあり。會
産業を振興し、輸出増加を圖る
と共に、輸入品中朝鮮産品を以て
代用し得べきものは、依
て其の如きは之を内に求めて得ざる。也然し土を賣
すに其用處を非ざる贅品
此を以てせりと。將軍の云ふを得厚く
平壤に於て結土をなせり、四邊は斷
崖の峭丘にして、狭長なる結土をなせ
り、海抜二千六百餘尺臺上には、堦
臺九層の階甬を主として築くも、得
る人家に於て住すに熱くも、用

[illegible]

我僑を維持し居れるを以て市况尙る頗ふみなりと

鑒隣寸業者會合 神戸に於ける同業者は鑒に鑒寸製造を半休とし、その斯界の供給、過剰を調節するの方策を考究したるが大阪に於ける同業者も亦全体として同様調節を計り來りしも五月一日より之を半休とし、職工に對する工資は其の七八分を給する

専を二十三回同業者十八名同區本田
 の日本實業株式會社に於て會合
 決定したり
 日本郵船の配船 日本郵
 船株式會社は今同業航路より四艘
 六六〇〇トをシヤートル線に配
 し丹波丸九波丸の二隻をも同線に配
 船汽船せしむと從來香港線に充てたる
 鐘金丸を再び香港線シヤートル
 航路に配船し横濱丸靜岡丸在波丸に
 加へ同線に再航せしむるに決定した
 るを以て本報より本港より三、四一
 〇一句づつ (五月十日の日付)
 苗圃見下ろしに名残る娘の埃
 羽毛の品吊り古く煙の別れ
 爐釜ぐ木の間の瓦照となりぬ
 庭水すり出で千さる儘の別れ
 目 池

京日詩壇

○益松 栗原 華陽
互毆雖小爾後冬、風颶風來恰若龍蛇相搏、
是機遇、我抱負。相看日夕發矜情。
評曰 大有奇托

盆英猶成石上客、虛榮不顧大夫封。
枝節有凌雲勢、此是吾家小閨龍。

評曰 同策尚必癡癡 小永井槐陰

葉密樹瘦古、低矮藤纏暈。知難處在
小龍峯起雲霓。移來以拂軒。添韻中開。

評曰 用筆靈活、回讀不倦、

取次賣

製糖八十噸同新設自榨(出八十噸)
 合計千八百八十噸に達せり而して一方
 消化力は内地百五十萬俵 海外五百
 萬俵合計三百五十萬俵にして前記生産
 額と消化力を對照せば即ち一箇年三百
 萬俵の生産は日本自製糖の生産高
 に差支なく從つて他社の生産額は過
 剩となる譯合なれば糖業者如何に之
 を見るか或は操業休止其他の方法
 を講ぜざるべきなりといふものあり

大日本自製糖近況 大日本
 製糖株式會社に對し滿洲製糖株式會社

口 幸司 原稿 鳳梨花
 ものゝし妻と云ふ名に女とよふ
 も不圖したる妾にもものゝし
 自暴自棄たまきか來りみづから
 あるか無きかに輕くあつた子
 なげつけし白き花東くづぼる人
 此の芳き名の前にひれ伏して何ぞ
 此のおぞの我が魂

口 秘にリ 京終 米 花
 我が心 鉦路大路をさまよひて砂
 まこりして歸へ來るをさまよひて砂

上の人家は、僅少の、商家の外概ねボン
べー人士遊樂の爲めに作れる。家屋
にして壁なるは、密々林中に赤屋點を
置上るの眺望は絶佳なりと雖も、
茂林に蔽せられ望むべからず、唯所
々の山角に小櫓を供へ遊覽に供せり
軒並み有餘、低微の鑑舞する邊若
の中ボン一孤潭に夕陽の姿を映
する實に壯觀なりとす、附近の野丘
は武岩なるを以て、岩狀を同う
せり、風色雨滴山竹發散し層塔の天
を穿たり、

毎の朝日は纖翳をも覆ふ事なきを以て、
翳の強光を射、九嶺の雲雨は山
骨に散せざるは止まず、其風化作
の強なる他に見るべからず、故に
脆弱の所は概ね脱去せられ奇岩肆
たるを發せり、然れども玄武岩の性
性たる平頂と層狀をなせるは、奇觀
に西ガツト山脈に於てのみ是れ觀
して同じく玄武岩帶なるもデツカン
東部に於ては如斯き奇嶺は見るべ
からず、此地林木既に多く鳥獸亦人

に付するが如きあり。視聽官對其西
の禮拜殿に廻するものあり。奇狀枚
舉する能はず。

大山の奇狀なるは石灰岩を最とし
花崗片岩・麻岩はそれに次ぐ。玄武岩の
如きは常に高崖をなし扁平なるを其
餘は、

人家に近き猿猴の屬巨肩種をナリ
なり。草に踰躍奔馳せし、是れ本國
に於て見る可からざる光景にして印
度人は悉く動物に對して殘虐なカ
我人はい何故に中動物を敬視し之
殺戮するを常とせり。家畜す猿猴
を、

汝山浦地万金融組合ハ出資總口數ヲ
 武百六拾六圓ニ拂込タル出資ノ總
 額年參月拾日變更シタル由ニシテ
 五年參月參拾日現在ニ依ル
 右定年四月貳拾四日登記
 京
 地方法院

汝山出張所

一荷車運送ノ制ニ當百枚
 此入札保證金金目於札金高ノ百分
 ノ五以上

物品購買公告

入札者 府内ニ於テ國稅、地方費、
 府稅、俸給組合費、年額二十圓以內

納ムル者ニシテ斯業ニ經驗ノ有ヲ
 入札ニ希望ノ者ハ本府會計課ニ就キ
 入札心得書^{（附書）}ハ本府會計課ニ就キ
 面熟熱心ニ入札スヘシ日前十一時
 同會計課ニ入札スヘシ前時開札
 此契約ハ朝鮮總督府尹金谷允擔
 大正五年四月二十六日
 京城府

新刊書御案内
 朝鮮諸官廳受職者取上御旨 特七五
 必支法律書
 那申大正五年二月二十五

カ	カイゼルの要函	皇室要函	九五
キ	ペン習字	手本	三拾指環
ク	改書法		九〇
ケ	露西亞語學	楷	八拾四頁
コ	化學解法	二講義	百四十一頁
ク	増補訂正	二講義	百〇〇頁
カ	年史	特	五〇
キ	人心操縱	法	香山智人
ク	綱目式地理概説	根本常道	三五〇
ケ	久成岡象山言行録	熊井龍三	三三〇
カ	成功の道	道徳聖訓	一二〇
キ	災者の畏ひ	と青木十子	九〇
ク	目白	生	活
カ	植物	臨海極子	五〇
ク	崑崙	語	語
カ	敬授方冊	那全國事典	支那文庫
ク	改訂支那全國事典	支那文庫	二〇〇

和か松
 醇良清酒
 大阪屋號書店
 電話二〇八六
 京橋本町

若松商會酒造場
 同 大郎東門町
 精米部
 電話 一〇三七番
 電報 一〇三七番
 四月二十五
 南大門 龍
 一 一等
 五枚以上の御申

四月三十日(月)
臨時列車
お

イゲダ小兒病内科醫院

池田 季雄

京城三遊吳服店前へ入る池町四丁目 電話(醫院) 二三四四
(宅電) 八八〇番

帝車各種
ハツキング
ビツカー
生皮齒車
綴革組金具



新田精車

朝鮮總代理店

定價
表印

他家...
品貨保證在庫豐富
鐵箱白神洋行
仁川本町四丁目
大正十一年四月
送呈

嫁姑の経験
祖國の家
土産
伊集院
入澤夫人
松田夫人
山崎夫人
武藏藏所の生計
品物を安く買ふ私家庭
品物を生かす女中に使ひ我々家
妻に對する飾られ希望
夫に對する偽りの註文
平常生活へ供し置く土産
不常生活へ訪問服との改良
日本記記者
五月號

[illegible]

堅強力大 價廉 下

專賣 特許 宿谷式實用噴霧器

果樹園藝家 養耕作家 最適 畜舍 鋤舍

長篇家 庭小說 黃菊白菊 後藤 由外



定價七圓五錢

此無下天

東京製造所 角谷商店
初製山洋行車輪開庫本附三十五番地

朝鮮總代理店 滿留嘉久商店
商標電話同八十三番地東京三九番

御報次第説明書送呈●京城日報廣告に因り御注文の方は特別大割引

行臨時汽車運轉

五日より五月七日まで
出驛より倉洞行往復切符發賣
八十錢 三等 四十五錢
に對しては南大門、龍山より早速配達す

朝鮮總代理店

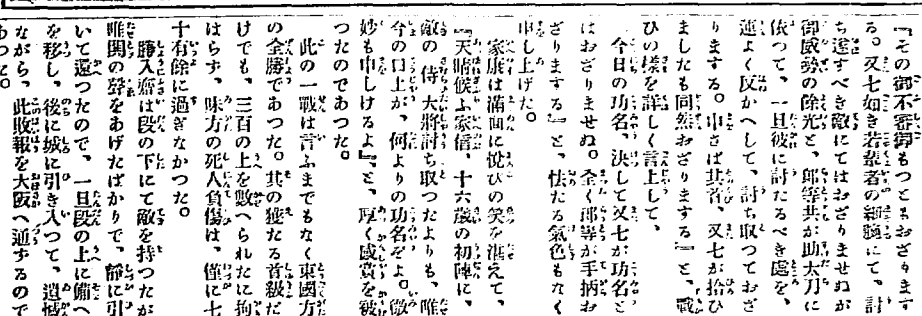
曜日(に限り)南大門倉洞間に
 花見臨時列車を運轉致候
 山崎山登 午前八四三〇
 有田著 阿九三五〇
 午後四四〇〇
 五〇五
 府道局

新近所の陽明は私に接談策を以て、
 利為人の誠意の表を定むるを以て

羽^a
黑⁵
(六)



「又七則、これ一出し」
「はつ」とばかりに座を進む家信の
若武者振をもつと見て、
「野呂郎左衛門と申す侍、何れの職
ひにも先を驅けて、先陣の陣者とは
誰知らぬ者もない英雄ぞ。其は
彼と流り合つて、安々首級をあげ
た申すが、何うぢや」と不審を
糺した。



「その御不審御もつともござりまする。又七如き若輩者の親類にて、討ち違ふべき敵にてはおざりませぬが御威勢の除光、郎等共が助太刀に依つて、一旦彼に討たるべき處を、運より戻かへして、討ち取つておざります。申さば其首、又七が拾ひましたも同然おます」と、戦ひの機を諷しし言上して、今日の功名、決して又七が功名におざりませぬ。全く郎等が手柄おざります」と、怯たる氣色もなく申し上げた。

家康は満面に笑ひの笑を湛えて、天照御上家信、十六歳の初陣に、鶴の侍大將討ち取つたよりも、唯今の口上が、何よりの功名をよ。微妙も申しけるよ」と、厚く感賞を被つたのであつた。

此の一戦は言ふまでもなく東國方此の全勝であつた。其の獲たる首級だけでも、三百の上を數へられたに拘はらず、味方の死人負傷は、僅に七十有餘に過ぎなかつた。

勝入齋は段の下にて敵を持つたが唯聞の聲をあけたばかりで、節に引つてゐたので、一旦段の上に廟へを移し、後に娘に引き入つて、遺恨なかつた。此敗報を大坂へ通するの

夜寐の香をいふや、花葉にそよぐ日輪が暈々
三昧に寝てゐる。四二三

○草四居小集

雁名城、秋風過屋聞く、門聞に泥下
石町り出す谷淵へ雁林行く同
湯の切落く川雨打も雁林行く同
雁狹行く雁漁家に貝火燃え去雁不
去雁と星拱換の葉落さざる同
被蹠履談蹠蹠雁を指すがあり同
變死観汽車人々た雁去る同
車頭向人崩れちし踏る雁對
雁離より疎雨洞門の暮色哉同
一酒行くと酒残き並ら雁應の青鏡同
濱街遠幾松たは雁應の斧銚同
鐵工場の槌音遠き踏る雁同
舟は雨煙ろす空に歸る雁棧
雁影落す水田夕雨なく雁木
地江に鶺鴒數地名残る雁四
春欄組む納屋日暮れる雁去る同
破波の浪果ても空名残る雁同
旅人の漬物も空名雁去る同

御大禮と小學兒童

[illegible][illegible][illegible]

「尾の軍士」は東京参議院の門其社）
 ▲モジヤバ、タイムス、スチュ
 デント、エニチン（五の七、別つて）
 新聞社及び特別編とす多く最近あるは新聞
 事左様適切なを詳解を附したれば世知
 究究に最も有益なり（二）読者此に希望
 内 幸助のヤパンタイムス（生三三三）

▲大和町二丁目
 主人に同情す此也

主君の御方

其も時間^に程度^でがありますから（元）程度^{まで}くも午後十一時頃迄ならば）程度^{まで}超えないならば致方^はもありますまいか

と、珊瑚瑠璃と云ふ兩
に燈へて真中^をで照
映には、御園^りで
御察し申上りますま

それでも絶対に止らうと迄は夫は貴女の方の無理でず貴女の小供が深夜泣きとせし際大聲で泣れるのに近隣のものが眼を覺ます様のも致さもありまふから御五少し位のこととは勘辨が必要でず其れでも嫌なれば貴女が他へ

（仲介生）「聞くに血湧き肉躍る醫
珠戰も近付いた我京中の健兒諸君
は各チームを一掃して去春會稽
耻を雪がれん事を（咸興生）「電火
き般舟載くは歐洲刻下の形勢にあ
ちや陰雲陪陪殺氣地を捲いて到ら

とするは支那近時の狀況にあらす
とす青年階級の聲望に豊吉人青年
もの奮發一番なくして可ならん
起て起つて意氣を千難萬苦の中に
練して其處に勝利の桂冠を戴めよ
而して名を千載に遺せ(黄金町)P.P.P

寫眞

寫異出張撮影
寫眞銅版、亞鉛凸版
盛も熟練した技術を以て最も廉價に出
産し、時勢にあつては、高價に賣出さる
京成社社長 寫眞製版所

南山鐵道通しは兩側より土石崩落
危險に候が當局の御注意を願ひ上正
候（通行生）

[illegible]

ミツワ石鹼

擔任技師 工學士 藤野太治郎
工學士 越智圭一郎

凡そ石鹼は、工業用、洗滌用、洗濯用、浴槽用、化粧用等各用途に従つて其種類を異にす。雖も、而かも皆等しく、遊離の亞爾加里なく、遊離の脂肪なく、此の混合物なき化學上の純石鹼たらざるべからざるは、素より當然のことなりとす。皮脂の分泌量多くして而かも粗糙なる本邦人の皮膚、及び漆黒を賣ぶ毛髪、洗滌に用ふべき化粧用石鹼は、實に化學上の純石鹼たるの故のみを以て、其適否を論ずべからず。

○ミツワ石鹼

は化學上の純石鹼たるのみならず、なほ左の性状を具備す。

- 一、原料を精選し、脂肪に香料に、荷も刺激を感じすべき虞あるものを用ひず。
- 一、溫雅の芳香を有す。
- 一、細き泡沫を生ず、適度の溶解性を備へて能く水にも溶解し、而かも浴室に用ひて半途に溶け崩るゝが如き憂ひなし。

故に一般の家庭に於ける、浴室、化粧用として、衛生に適し、經濟に合する、理想的實用石鹼なり

▲賣捌 全國到處の小間物店、化粧品店、藥舖、洋酒食料品店

本舗

ミツワ石鹼
ミツワ家庭薬油鹼
肝油ドロップス
御園化粧品

發賣元

丸見屋商店

東京市日本橋區橋町四丁目
藥劑、滋養品、石鹼、香粧品、小間物問屋

營業部 電話 四四四
振替口座 東京七〇〇
四四四
五五五
〇九八
番番番番番